



アクリルなど 樹脂製ケースを製造 樹脂加工の可能性を追求



私のこだわり
ものづくり

ほうようじゅしこうげい
有限会社寶洋樹脂工藝

しまだ ようすけ
嶋田洋介 代表取締役

昭和27年東京都文京区生まれ
平成12年に社長就任

- ◆住所: 西東京市住吉町1-9-8
- ◆工場: 埼玉県所沢市南永井1062-5
- ◆電話: 04-2946-9992

ほうよう樹脂工藝

経験で培った感覚を駆使し
美しい製品づくりに全力
化粧品店や家電量販店、スパーなどの店先で目にする展示・販売用のアクリル製の棚やケース。有限会社寶洋樹脂工藝

「ものづくりの面白さを若い人に伝えていきたい」と語る嶋田社長

嶋田社長はデザイナー出身。樹脂加工の会社でインテリアデザインを手掛けていたが、「自分が考えたものが形になるものづくりの面白さ」に目覚めて製造の道へ。平成9年に脱サラして寶洋樹脂工藝を立ち上げ、12年に法人化した。

会社経営は決して順調とは言えなかった。リーマンショック後、受注が10分の1に激減。ようやく回復したのも束の間、大口の取引先が内製化して注文が全く来なくなり、再び経営危機に。顧客開拓と資金繰りに駆け回り、ようやく持ち直した。

樹脂加工の工場は最盛期に比べ3分の1くらいに減っている。後継者不

は、こうしたアクリル加工の製品をどこよりも美しく作ることに全力を注いでいる。

パネルソーで裁断したアクリル板をNCルーターで図面に従って切り抜いた後、組み立てる。注射器に専用の接着剤と溶剤を入れ、接着する面に一定の力加減で塗っていく。機械ではできない、熟練社員による繊細な技術が要求される作業だ。

「接着面に泡が入らないよう細心の注意を払います。組み立てが一人前にできるまでには、最低5年はかかります」と嶋田社長は話す。組み立て後は、切り口や接着面を美しくするため、研磨用バフで磨いたり、ガスの炎を当てて透明に仕上げている。最後に検品作業。傷や汚れがないか、隅々までチェックし、丁寧に梱包して納品する。



美しさに定評があるアクリル加工の各種製品



組み立て作業には繊細な技術が必要

足もあるが、商品を表示する各種ケースがアクリルからよりコストの低い紙など他の素材に移行して、仕事自体も減少しているからだ。嶋田社長は複雑な形状の加工など、より付加価値の高い製品づくりに励む一方で、樹脂加工の可能性を広げる活動にも力を入れる。29年には製造業の展示会に初出展し、樹脂素材の特長や自社の技術をアピールした。

「樹脂は熱に弱いという弱点があるが、それは熱で曲げられるという長所にもなります。これまで樹脂を使っていなかった業界に、樹脂の良さを知ってもらう、樹脂加工の仕事の幅を広げていきたい」と模索する。

後継者の育成にも力を注ぐ。長男で専務の光倫さん(35)をはじめ、同社の技術者4人は30代と40代。嶋田社長が手塩にかけて育ててきた人材だ。

「日本のものづくりを引っ張っていくのは若手技術者たち。国家試験のない樹脂加工の分野で、加工技術を競うコンテストを開くなど、若い匠を育てていきたい」と各方面へ働きかけている。

西東京市産業振興課 INFORMATION

創業に関する情報が集まっています! 「西東京市創業PORTAL」開設

西東京市では、西東京商工会、多摩信用金庫と連携し「西東京市創業支援ネットワーク」を構築し、創業者ひとりひとりに合わせた伴走型の支援を行っています。この度、市内の創業に関連する情報を各ウェブサイトから集約した「西東京市創業PORTAL」を開設しました。セミナー情報はもちろん、事業計画作りから資金調達、店舗物件探しまで、必要な情報をワンストップで入手できます。ぜひ活用ください!

西東京市創業
PORTAL



西東京市創業ポータル

西東京市産業ニュース 匠ナビ

本誌は西東京市の注目企業・事業所のホットな情報をお届けしています。市内企業・事業所へのマッチング、商談などのご相談は、西東京市産業振興課までお問合せください。

産業振興課・商工係 ☎042-438-4041

